



シンポジウムの様子



ヘルシンキ市内の風景



現在営業しているかもめ食堂

## EU諸国との経済交流から、 経済戦略へ

山口日本フィンランド協会 射場博義

平成18年10月12日から13日にかけて、EU加盟国中11カ国とEU代表部の経済担当者が、経済交流の目的で山口県入りしました。これは、一年に一回、EU加盟国の経済担当者が全国から1カ所を選んで地域の経済界の交流や情報収集を重ねているものです。

山口を候補地にとEU議長国であるフィンランド大使館に地元の情報を積極的に提供し誘致にこぎつけることが出来ました。産炭地域として「有限の石炭から無限の工業へと転換して発展した都市」、産学官連携を積極的に取り組んでいる都市として宇部市を候補地に推薦し、EUの正式な会議で承認され、数々の交渉の結果実現したものです。

今回山口県入りしたのは、EU議長国であったフィンランド、イギリス、スペインなどの11カ国です。到着早々に、山口県商工労働部から県の経済戦略についてのプレゼンテーションがあり、意見が交わされました。その後、EU諸国に進出しており、先端技術開発も行なっている(株)宇部興産への訪問、フィンランドとの合併会社である宇部ケミラ社への工場見学、山口JETROによる県内取組みのプレゼンテーションと続きました。宇部全日空ホテルでは、レセプションと交流会が催されました。山口EU協会の江里会長をはじめ、行政・企業・国際交流団体等が出席され、EUと地元との間でいかに経済面からの相互理解を進め、ビジネス・チャンスを生んでいくかについて、意見交換がなされました。

翌13日は宇部市長表敬訪問ののち、EUにも進出し、食品・医学・科学を初めとする新しい分野に進出を続ける(株)ヤナギヤを訪問しました。特に、世界十数カ国において水産練製品製造機の8割以上のシェアを誇るという話に、中小企業がもつ技術力と専門性、国際的な経済展開の可能性について、EU諸国の経済担当者から驚きの声も挙がりました。また、(株)超高温材料研究所の訪問では、航空、宇宙、エネルギーの分野において1500℃以上の高温域で冷却なしで使用可能な材料の開発研究を支援する施設に、地元の先端技術のレベルの高さを知らせる

機会となりました。

大都市、大企業のヨーロッパ進出とは別に、中小都市の中小企業が狙える分野やマーケットが必ずあり、中小企業同士で国境の壁を越えてニーズとシーズをマッチングさせる可能性が必ずあります。隙間(ニッチ)を見つけるヒントを得るためにも、今回のような経済交流を重ねて、地元の企業力や国際的視野を拡大することが重要であるとともに、山口県の産業や企業についても、大いに発信していくことが大切だと感じています。

今回築いたネットワークを次に生かさねばなりません。山口県内のヨーロッパに関心のある企業と企業を結び、また、日本に大使館を置くEU諸国の経済担当者とのネットワークを深めるための次なる一手を模索中です。日本に在住している大使館職員だからこそわかってくれることがあるはず。それを、海外につなげていくのがグローバルビジネスの近道だと思っています。

なお、この機会に、山口日本フィンランド協会のホームページ(<http://www.y-finland.com>)もぜひご覧ください。



山口県の経済戦略に関する  
プレゼンテーション



超高温材料研究所では  
次々と質問が飛び交った

## イベント情報

### 欧州経済・通貨セミナーの開催

平成19年5月15日(火)の午後から夕方にかけて、宇部市全日空ホテルにおいて、ユーロの地位と役割についてのセミナーを開催します。講演者は、ギュンダー・グロッシュ氏(元IMF理事、現在ユーログループ議長特別顧問)。主催は欧州連合(EU)駐日欧州委員会代表部、共催は山口EU協会、宇部市、ジェトロ山口。詳細は、ジェトロ山口(Tel:0832-31-5022)までお問い合わせください。

### 第5回山口国際交流芸術祭の開催

平成19年7月16日(月、祝日)、ザビエル記念聖堂にてフランス音楽コンサート〜西洋音楽発祥の地山口>を開催します。フォーレの「レクイエム」を中心に構成したコンサートで、指揮者：清水宏之、バリトン：浜田嘉生、ソプラノ：荒川順美、パイプオルガン：寺岡恵美、山口大学管弦楽団、山口市民で構成される山口国際交流芸術祭合唱団などが出演します。詳細は、第5回山口国際交流芸術祭実行委員会事務局(Tel:083-902-7100)まで。ホームページもご覧ください。

(<http://www/jdg-yamaguchi.jp/kokusai/kyoukai.htm>)

発行 山口EU協会事務局 〒753-8502 山口市桜島3-2-1  
山口県立大学 事務局内  
Tel 083-928-0211  
iwano@fis.ypu.jp

# おいでませ EUROPA No.7

## YAMAGUCHI EU Association

山口EU協会事務局 山口市桜島3-2-1山口県立大学内

### もくじ

- 1 山口EU協会会長挨拶、第5回EU協会全国総会の報告
- 2 第4回山口国際交流芸術祭2006  
～ヨーロッパ芸術祭の報告
- 3 フィンランドの映画・シンポジウムの報告
- 4 EU経済フォーラム報告、イベント情報

## 「山口EU協会」の発展には

山口EU協会会長・山口県立大学理事長・学長  
江里健輔

会長あいさつ

欧州連合誕生は幾多の問題を乗り越えたもので、複雑である。ヨーロッパは20世紀に2度にわたる苦渋の大戦を経験し、この悲惨な体験を繰り返さないために、共同体をつくらうという大きな共通意思が生まれた。このような機運で石炭鉄鋼共同体の結成を土台として現在の欧州連合(EU)へと発展していった。文明の進化が地球全体を身近なものとするにつれて、国家の枠を超えて集約する必然性が生じ、連合、合併へとグローバル化するの当然である。

山口県では平成2年4月にEU各国と山口県内地域住民同士の相互理解を深め、友好親善を促進し、両者間の文化および経済の交流を寄与することを目的として「山口EU協会」が設立された。16年という歴史を持つ「山口EU協会」にとって、欧州連合および「山口EU協会」の設立に叶った活動がなされているかを考えることが大切である。

県内のある企業の方から「山口EU協会」への協力はなかなか難しいという返事を受けたことがある。理由は単一国家を対象とする場合、例えば、企業発展のための相互扶助のノウハウは判りやすいが、EUとなると多国家を対象となるので焦点が定め難い、という説明であった。総論では共同体であるが、各論では各国での価値観が異なるための発言である。この事が「山口EU協会」の歴史の長さにも拘わらず、会員数が少なく、活動も山口県全体を包括したものにならしていないのであろう。20周年を目前にして、緊急に対応しなければならない「山口EU協会」の大きな課題である。

平成18年度には第4回山口国際交流芸術祭が実行委員会主催のもとで開催され、「山口EU協会」は共催した。多くの参加者のもとで盛大であったが、「山口EU協会」の貢献がどの程度県民に周知されたかにはまだ課題が残る。会長として「山口EU協会」ならではの独自のイベントを通じて、さらにアピールする必要があると考える。それには、会員は勿論のこと、県民、公共機関さらには県内のマスメディアの積極的な支援を仰ぐことが重要である。

本邦には11県にEU協会があるが、事務局が大学にあるのは「山口EU協会」だけである。それだけに独自色を出しやすい環境にある。今後はこのような方向性を熟慮したい。会員皆様のご支援・ご協力を賜りたい。

## 第5回EU協会全国総会の報告

山口EU協会専務理事 伊嶋正之

NEWS

昨年5月、駐日欧州委員会代表部(東京都千代田区)において、ツェプスター代表(大使)ほか委員会幹部と全国のEU協会(11団体)の代表が参加して、第5回EU協会全国総会が開催された。

まず、ツェプスター大使による「日・EUサミット後の日・EU関係について」と題するスピーチがあった。(要旨は次のとおり。)

・EU(25カ国)も、新たに数カ国が加盟候補となるなど、その基本的な理念は着実に浸透している。(注：EUは現在27カ国)  
・昨年は、フランス、オランダにおいてEU憲法の批准が否決されるなど停滞もあったが、一方、リスボン戦略を通じた経済の近代化への取組など着実な前進もあった。

・先月(4月24日)、東京において日・EU首脳会議が開催され、国際社会の平和と安全、多国間システムの強化などに関して、多くの協議・確認が行われた。

・次回の首脳会議までの重点目標を「平和と安全の促進」、「経済・貿易関係の強化」、「地球規模の問題及び社会的課題への挑戦」、「人的・文化的交流の促進」とし、14の具体的な優先事項を確定した。  
・今後とも、国際社会のグローバルパートナーとして、また、価値観を共有できるパートナーとして共に取り組んでいきたい。

次に、各EU協会から活動状況の報告があり、山口EU協会からは、総会・ヨーロッパ芸術祭の開催(7月)、EUセミナーの開催(12月)、会報「おいでませEUROPA」の発行(年2回)などの報告を行った。なお、全体として見れば、規模の大小はあるものの、各協会とも、講演会、セミナー、音楽会などの開催、会報の発行といった活動を行っている。

最後に、委員会より、今後のネットワークの強化について、「委員会資料(パノラマ、カレンダー、マンガ、映画フィルムなど)の十分な活用」、「ユーロの理解に向けた地域でのセミナーの開催についての検討」、「今後の活動に当たって、大学との連携についての検討」などの依頼があった。なお、大学が事務局となっているのは全国で山口のみ(他は殆どが経済団体)であり、総会に出席して、こうした特性を活かした活動の必要性を改めて感じたところである。



EU代表部からマシュー・グリーン氏を迎えて  
山口EU協会総会開催(2006年7月)



# 第4回山口国際交流芸術祭2006 ～ヨーロッパ芸術祭

実行委員長 上原久生

平成18年7月7日(金)から9日(日)までの3日間、山口県立大学講堂(桜園会館)において、山口県内のヨーロッパ関係の国際交流団体(山口EU協会、山口日英協会、山口日独協会、山口ナバラの会、日本山口フィンランド協会、日仏国際交流クラブ)が共同で、第4回山口国際交流芸術祭を開催しました。

今回は、「伝統とひろがり」を基本テーマに、コンサート、映画上映、絵画展示等を行い、広く子ども、学生、市民の参加を得て、伝統に根ざしつつ新しい広がりを夢を持って語りあえ、人々が幸福になるメッセージを発信するイベントとし、期間中約1,100人の方が集まりました。

初日は、シューマン没後150年に当り「ドイツ音楽のタペ～シューマンの生涯をたどる 朗読&コンサート」を行いました。この内容は、ベルリンでも行われた企画で、テキストは、山口日独協会が翻訳して公演しました。朗読は、防府市出身の俳優で各方面に活躍中の藤田三保子さん、ピアニストは、防府市出身ベルリン在住、ヨーロッパ・日本で活動している原田英代さんが出演しました。プロのお二人による質の高い、芸術性あるシューマンのタペとなりました。今後山口日独協会では、これを契機に年1回のドイツ・リートの企画が継続して計画される事となりました。

\*

2日目は、実行委員会の構成メンバーである山口日英協会にちなみ「イギリスの音楽」を特集しました。イギリスの音楽は、明治以来唱歌に数多く取り入れられるなど古くから大きな影響を日本へ及ぼしています。

第1部は、①ピアノ独奏：高橋正美氏、エルガー「三つのバイエルン舞曲」・「愛の挨拶」、②オーボエ独奏：富田博之氏、プリテン「オヴィゼウスによる6つの変容」、③合唱団：「イギリス・ホーム・ソング・メドレー」・「聖フランシスの祈り」が演奏されました。これらの演奏者は、山口で音楽に研鑽を積んでいる人たちです。合唱団は、地元宮野小学校児童や市民等から成る合唱団65人でした。また地元のみならず、関西から31名の方が友情出演され、新しい交流も始まりました。

第2部は、①吹奏楽曲：山口県立大学吹奏楽団BLAZE(指揮磯村光生氏)、「ビートルズは飛んでいく」、②オーケストラ：山口大学管弦楽団及び市民、パーセル「ムーア人の逆襲」、エルガー「威風堂々第1番」、③合唱・オーケストラ：ヘンデル「ハレルヤ コーラス」、そして、

最後にお客様を加えた会場全員によるスコットランド民謡「蛍の光」を演奏し、幕となりました。これらの指揮、指導は、アメリカ、イギリス、ドイツ等で指揮活動を行い、現在日本各地でオーケストラ、合唱団を指揮しているプロの清水宏之氏(川崎市在住)を昨年に引き続き招聘し、質の高い音楽を目指すと共に参加者の学習、レベルアップにつなげました。

イギリスの音楽をまとめて、系統立てて聴ける日本でも珍しい企画が実現できました。

\*

2、3日の映画は、英国エリザベス女王も涙した大人たちのおとぎ話「ラヴェンダーの咲く庭で」(イギリス)を紹介しました。

《長い年月、私は来るはずのない王子さまを待ち続けた。そしてある日ついにその人は、海を越えてやってきた。彼と過ごした短い季節、私は心が震えるほどの幸福を味わった――。彼と過ごす楽しい時間、その指が奏でる美しいヴァイオリンの音色の響き。叶うわけないと、もう何年も心の奥底にしまいこんでいた感情がにわかに沸き起こる…》

広大な自然に囲まれたコーンウォール地方を舞台に、2人のアカデミー賞女優が競演したイギリスを代表する質の高い映画を提供できました。

また、期間中、真木緑さんの絵画をロビーに展示しました。これらの作品は、2005年10月、イギリスの古都チェルトナムで行われた文学フェスティバルに出品、入選したものです。「俳句をベースにして、絵を創る。句から得たインスピレーションを、私の想像の世界に引き入れる。そして、一番適した表現方法を見つける。このプロセスは、七転八倒の遊びでした。私にとって絵を描くことは、しなやかに生きていく上での一つの道具だと思っています。」(真木緑氏筆～プログラムより)

\*

3日間トータルとしての楽しみ方ができ、芸術祭の名に相応しいものとなりました。初日は、ドイツの構築性の高いシューマンの世界を楽しめました。2日目は、ドイツ音楽の世界の後、おほかとも言える違った形のイギリス音楽が経験できました。

2、3日目に上映した映画「ラヴェンダーの咲く庭で」においては、しっとりとした大人たちのおとぎ話の人間愛に感動すると共に、自然を大事にしているイギリスの素晴らしい風景を鑑賞できました。また、絵画展示により芸術祭の対象分野を拡大する事ができました。

この芸術祭は、今回で第4回となりましたが、アンケートの結果によると継続して定着する事を望む意見も多く、今後の継続開催の目途が立ちました。市民参加型の企画を行うことにより、地域の協力体制も整ってきました。今後も地域文化の向上、地域振興等に寄与して行きたいと考えています。皆様の、ご支援、ご協力をよろしく願います。



山口EU協会江里会長による  
オープニングのあいさつ



初日の「ドイツ音楽のタペ」



イギリスの音楽コンサート

# シンポジウム 「かもめ食堂」から見える フィンランドの暮らし

山口EU協会理事、山口県立大学ヨーロッパ  
プロジェクト・リーダー 井生文隆

全国的に人気が広がっている映画「かもめ食堂」が、山口情報芸術センターYCAMにて上映されることにちなみ、山口EU協会、日本山口フィンランド協会、山口情報芸術センターYCAMの共同主催、フィンランド大使館、フィンランド航空大阪支店、山口県立大学の協力、モアコスメティックス株式会社の協賛で、同シンポジウムが2006年9月3日(日)午後6時から山口情報芸術センター・スタジオCにおいて開催されました。

映画の上映は9月1日から3日まで計6回の予定でしたが、好評のため2回の追加上映を行なわれました。また、シンポジウム前の上映では立ち見も出る中、数十人の方々が入館出来なかったというとても人気のある企画となりました。映画「かもめ食堂」はフィンランドでのオールロケーションを行ったこともあり、物語もさることながら、そこからフィンランドの生活や人々の性格なども読み解けます。

シンポジウムの進行は、各パネラーが約15分間のプレゼンテーションを行い、その後ディスカッションという内容でした。以下、その様子をお伝えします。

\*

<ユハ・ニエミ：フィンランド大使館一等書記官>「フィンランド人の気質を日本の映画である「かもめ食堂」はよくとらえていました。自分は東京に住んでいますが、ヘルシンキと東京、文化の違うフィンランドと日本、落ち着いた気分になるのは不思議です。フィンランドと日本は面積が同じなのに、人口は500万人と1億人。しかしながら心地いいのは、フィンランド人と日本人の国民性に共通点があるからだと思います。」―そのことが映画にも反映されているという話でした。

<堀田博之：フィンランド航空大阪支店長>「フィンランドについてですが、有名なのはムーミン、サンタクロース、キシリトール、NOKIA、フィンランド魂、がまん強く優しい国民性などがあります。日本であまり知られていませんが、現在500万人の人口の国が世界をリードしています。世界経済フォーラムでは、数年連続で国際競争力1位、そのようなIT先進国にも関わらず、環境維持可能指数も世界1位です。」―先進性と自然の豊かさが共存する素晴らしい国であることを紹介されました。

<青木エリナ：『旅の指さし会話帳フィンランド編』著者>「ヘルシンキにある『かもめ食堂』は、フィンランド料理の食堂として現在も営業しています。フィンランドのティピカルな食べ物や料理について、そのフィンランド語の名前についての意味と背景にあるフィンランドの暮らしや文化などを紹介します。」―ということで、フィンランド語がとても楽しくフィンランド料理が本当に美味しく感じられ、今すぐにもヘルシンキに飛んで「かもめ食堂」に飛び込みたいような素敵な内容でした。

<水谷由美子：山口県立大学・服飾デザイン>「フィンランドの服飾について、民族衣装と現代のファッションを紹介します。」―ということで、前者については夏至祭の様子と合わせて見る事ができました。また後者については、世界的なフィンランドのブランドの「マ

リメッコ」では、「ウニッコ」というモチーフや「ヨカボイカ」というシャツなど50年も長く同じデザインの製品が売られ続けているというロングライフデザインの展開、そして服飾のみならずライフスタイルのファッションを提案している企業であるという興味深い内容でした。

<井生文隆：山口県立大学・プロダクトデザイン>「プロダクトデザインの視点から、カイ・フランクとアルヴァ・アアルトという世界的に有名な二人のフィンランドデザイナーの作品を通して、フィンランドを紹介します。フィンランドのデザインは長く愛着を持って使えるデザインであり、同じデザインで50年以上も販売されている製品が多くあります。そのことは、例えば家族が増えたり、また製品が壊れたりしても同じものが新しく買うことができるというのが素敵です。またそのような素晴らしい背景を持つフィンランドでデザインを勉強するために、フィンランドの大学や大学院に近年3名の正規留学生を山口県立大学から送り出し、現在留学を終えた2名の学生は各専門領域で活躍しています。」

\*

<縄田恵：コーディネーター・日本山口フィンランド協会会長>「フィンランドといえばサーモン、日本人が朝食で食べたいものがシャケといったフィンランドと日本には、多くの共通点があります。ニエミ氏にはフィンランド人はなぜ日本が好きなのか、また他のパネラーの皆様は、なぜフィンランドにはまっているのかについて、コメントをお願いします。」

<ニエミ>「フィンランドと日本は異文化圏で、日本は長い歴史から素晴らしい文化を保有しています。そのような文化や習慣に根ざした日常生活に対してフィンランド人はとても興味を抱きます。」

<堀田>「フィンランドの人たちは、シャイで大げさには言わないし、自分を誇示しないし、相手を悪く言わないし本質を見極める人が多い。そのような落ち着いた国民性が、はまった理由がもしもあればいい。」

<青木>「人間性という部分で異文化なのに感覚が似ている気がします。父は日本人で、母はフィンランド人なのですが、前世は日本人と思うぐらい母は日本的です。自分は幼少の頃、フィンランドに興味はなく、中学生の頃初めてフィンランドに行きたかったのですが、25才のときに初めて自分の意思でフィンランドに行きました。その時フィンランド語はしゃべれなかったにもかかわらず、違和感無くすんなりとフィンランドに溶け込みました。」

<水谷>「フィンランド人は夏1ヶ月のパカンスをとるなど、自分の生活をとても大事にしている国民です。生活を大事に素敵にして生きていく具体的な方法を教えてくれるというところが魅力的です。またファッションの分野では、日本、パリ、ミラノの消費的なスタンスとは違ったフィンランドにも魅力を感じています。」

<井生>「日本の宮大工とフィンランドの木匠は、木の魂と対話してから加工するといえます。世界中でそのような感覚を持っている国は両国のみと思われ親近感を持ちます。フィンランドはゆったりと時間が流れる国と映画の中でありましたが、使っているうちにものの価値が向上し、いつまでも新鮮な魅力をもつデザイン、シンプルで機能的だけどとても暖かいデザイン、そのようなデザインの源泉を有するフィンランドに、はまっています。」

<縄田>「ものの考え方、感覚に近い精神面の機微に触れ、出会い、はまり、皆さんが交流されている状況がうかがえ、とても意義深いシンポジウムとなりました。このシンポジウムを契機として、今後フィンランドにもっと興味を持っていただく機会になれば幸いです。」